

け開示し、研究内容や成果を社会に対して分かりやすく説明することをその基本的責務とする。国民のニーズを研究者等が共有するため、研究者等と国民の対話を推進する。加えて、国民の科学技術に関する関心を高めるため、初等中等教育段階における理数教育を充実するとともに、成人の科学技術に関する知識や能力の向上のために科学技術に関する知識・技術・物の見方を分かりやすく文書化したものを策定して広く普及する。また、幼少期から高齢者まで広く国民が科学技術に触れる機会を拡充するため、科学館・博物館等の充実を図る。

(4) 人口減少・少子高齢化への対応

第3期基本計画においては、人口減少・少子高齢化に伴い、経済面及び社会保障への国民負担や国民の健康面など、様々な新たな社会的課題がもたらされることに関して、安定的な経済成長を実現するために生産性の絶えざる向上が必要であること、生活面の安全性や安心感、心の豊かさが強く求められていることなどを踏まえ、少子高齢化の急速な進展により大きく変化する社会にどのように寄与していくのかが科学技術に求められているとしている。

人口減少・少子高齢化を乗り越えて持続的な発展を可能にするには、国力の源泉としての科学技術に取り組むことが不可欠であるとし、子どもから高齢者まで国民を悩ます病を克服し、だれもが生涯元気に暮らせる社会を実現することなどを政策目標として掲げており、こうした政策目標を達成することにより科学技術が世界・社会・国民への貢献を強めるとしている。

第2節 ■ これからの日本と科学技術

要旨

我が国では、経済が持続的な成長過程に移行する兆しを見せる一方、人口減少・少子高齢化が進展し、労働力人口の減少が懸念されているほか、国際競争の激化、大規模自然災害やテロの発生、環境問題等の地球的課題など、克服すべき多くの課題を抱えている。

諸外国に先駆けて人口減少・少子高齢化という課題の解決を迫られる課題先進国となった我が国は、活力ある豊かな社会を実現することにより、課題解決の先進国を目指すべきであり、科学技術はこの点で大きく貢献することが期待される。

1 活力の源泉としての科学技術

我が国では、経済が持続的な成長過程に移行する兆しを見せる一方、少子高齢化が急速に進展し、労働力人口の減少が懸念されているほか、国際競争の激化、大規模自然災害やテロの発生、環境問題等の地球的課題など、克服すべき多くの課題を抱えており、これらの解決に対して科学技術に向けられる期待はますます高まっている。もとより社会が直面する課題の中には、社会制度の改善等科学技術以外の分野で対処すべきものも多いが、既存の技術では達成できない革新的な科学技術を導入することでしか解決が期待できないものも存在しており、その範囲は人々の社会的ニーズの拡大に応じて一層広がりを増している。人々が元気で活躍することのできる社会の実現、イノベーションの実現を通じての経済的貢献、人々が心豊かに暮らすことのできる社会環境の構築などは、いずれも科学技術の貢献が期待される課題である。

科学技術がもたらす将来像とはどのようなものであろうか。科学技術政策研究所において今後の技術発展の方向性についての調査を行った「我が国における科学技術の状況と今後の発展の方

向性」(平成17年5月)によると、安全・安心に関わる技術の重要度が増しており、また、ライフサイエンス領域をはじめ多くの分野にわたって学際的研究領域や分野間融合を進めるべきとされている。その結果、医療・生活等の質も向上し、より便利で安全な社会が到来すると期待される。

人々が望むような社会を築いていくためには、科学技術によって利便性や安全性を向上するだけでなく、社会の制度や仕組みも変化に応じて整備されていかなければならない。科学技術は単独で全ての課題に対して解決策を提供するものではないが、人々と問題意識を共有し、貢献できる一つ一つの課題に対して解決策を提供していくことにより、人類社会に大きな利益をもたらす原動力となり、我が国の社会的・経済的・文化的活力の源泉となることができる。

2 課題解決の先進国へ

20世紀の歴史的産物として、人類は21世紀の今、各種の地球規模の課題に直面している。その中でも、我が国が諸外国に先駆けて直面しているのが、急速に人口減少の進む少子高齢社会の到来という課題である。これからの世界において存在感のある国となる上で我が国に問われているのは、我が国がそれらの解決に貢献し、人類社会の持続可能性という課題に対して積極的な解答を提示できる国家になることである。

科学技術は、これらの課題を克服して我が国の世界に対する貢献を実現する有効な手段の一つである。今や我が国は、諸外国に先駆けて人口減少・少子高齢化という課題の解決を迫られる課題先進国となった。

我が国は、少子高齢化の中で活力ある豊かな社会を実現することにより、世界に向けてその有効な解決策を示し、世界の目標とされるような課題解決の先進国を目指すべきであり、科学技術はそのために大きく貢献することが期待される。

コラム No.21

2030年の社会

平成17年5月、科学技術政策研究所は、各分野の専門家を対象としたアンケートをもとに、我が国における科学技術発展の長期的展望についての予測調査の結果を取りまとめた。

その結果によると、2030年ごろまでには、以下のような技術が社会に適用されると見込まれており、少子高齢社会の課題への対応に大きな進展が期待される。



資料：科学技術政策研究所「NISTEP REPORT No.99 我が国における科学技術の状況と今後の発展の方向性（平成17年5月）」をもとに文部科学省作成